人間教育学部　教育・心理学科

系列（領域）	授業科目名	履修方法	履修単位数 学部共通	履修単位数 専門科目	備考	シラバス掲載頁
基礎教育科目	臨床心理学概論	L	2			2
	認知症援助論	L	2			4
専門教育科目	教職論	L		2		6
	社会福祉概論	L		2		8
	体育科教育法	L		2		10
	小児保健概論	L		2		12
	日本語教育入門	L		2		14
計			4	10		
合　計			14			

シラバス参照

講義名	臨床心理学概論
代表ナンバリングコード	00014BG02
講義開講時期	後期

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

氏名
◎ 餅原　尚子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 〇汎用的技能 〇態度・志向性
到達目標	病み、悩み、苦悩する人間の「みたて（アセスメント）」と「かかわり（心理療法）」について学ぶ。本講義では、人間を理解することの意味、かかわりのありよう（「生きる意味」への心理支援）について臨床心理学の視点から理解するのがねらいである。 1.「臨床心理学」とは何かを理解することができる。 2.臨床心理学的アセスメントについて理解することができる。 3.心理療法について理解することができる。 4.現代の病理現象（トラウマ、自殺、虐待など）に鑑みつつ、事例等を通して学び、臨床心理学を学ぶ上での倫理やスーパーヴィジョンについて感得することができる。
授業の展開計画	必要に応じて、話題のトピックスを取り上げたり、受講生が積極的に参加できるよう、「やってみよう」方式のアセスメント、討論等をとりあげる。 精神科病院、保健所、学校（スクールカウンセリング、緊急支援、特別支援教育）、被害者・被災者支援、メンタルヘルス（公務員、会社員、支援者等）における心理臨床の実務経験に基づく業務の実際を活かした内容になる。

授業計画表

回	内容
第1回	臨床心理学とは何か（テキストP1～4） ・臨床心理学にもとめられる人間観 ・発達観
第2回	心理支援と人間観（人間理解と支援に必要な精神的風土）（テキストP4～9） ・教育観 ・臨床観
第3回	臨床心理アセスメント：人間理解の方法（テキストP11～15） ・面接法、観察法、診断基準
第4回	心理検査の意味と背景（テキストP15～18） ・「受ける側」と「する側」のありよう ・テスト・バッテリー（心理検査の種類とその組み合わせ）
第5回	心理療法（テキストP99～103） ・精神分析療法 ・行動療法 ・人間学的心理療法
第6回	・こどもの心理療法（遊戯療法：プレイ・セラピー）（テキストP55～57）
第7回	傷つきやすい人間の心理（1）（テキストP99～103） ・自我、自己の拡散と喪失 ・自我関与 ・自我の強さ ・自我同一性拡散

第8回	傷つきやすい人間の心理（2）（テキストP103～104） ・自我、自己の拡散と喪失 ・自己実現 ・自己概念
第9回	情緒障害の心理（テキスト）P109～115 ・神経症的不登校 ・選択性緘黙
第10回	「いじめ」現象のアセスメントと心理支援（テキストP118～124） ・いじめる側」の心理 ・見て見ぬふりをする側の心理 ・いじめられている側の心理
第11回	病める人間（テキストP125～139） ・心の病気（統合失調症、神経症、心身症） ・体の病気（エイズ）
第12回	現代社会と高齢化現象（テキストP118～124） ・高齢の意味 ・病気や障害のある高齢者
第13回	メンタルヘルスと人間理解（テキストP149～163） ・感情労働、共感疲労 ・惨事ストレス（CIS） ・発達障害の苦悩
第14回	被災者・被害者の心理支援（テキストP165～204） ・PTSD（心的外傷後ストレス障害） ・緊急支援 ・サイコロジカル・ファースト・エイド（PFA）
第15回	臨床心理学における倫理とスーパーヴィジョン（テキストP205～222） ・倫理感覚の涵養 ・スーパーヴィジョン（生涯続く自己研鑽） ・「生きる意味」の確立

履修上の注意事項	守秘義務を遵守すること。
準備学習（予習・復習等）	シラバスを参照し、講義開始前にその都度、テキストを熟読し、専門用語等を調べておくこと。講義終了後はファイル（ノート）を作成し、いつでも復習できるようにしておくこと。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習をすること。
評価方法	到達目標に対して、臨床心理学とは何かを理解し、アセスメントと心理療法について事例を通して感得していることを中心に評価する。「関心・意欲の程度をみる授業への取り組み」（30%）、「臨床心理学についての理解と心理支援についての理解度、定着度をみる学期末の課題レポート」（70%）の総合評価とする。
テキスト	久留一郎・餅原尚子著（2019）『臨床心理学ー「生きる意味の確立」と心理支援ー』八千代出版（全員購入）
参考文献	恩田彰・伊藤隆二編（1999）『臨床心理学辞典』八千代出版
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

ページの先頭へ 閉じる

シラバス参照

講義名	認知症援助論
代表ナンバリングコード	00049BG02
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード

担当教員

氏名
◎ 小楠　範子

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解　〇態度・志向性
到達目標	認知症がどのような疾患なのか、また認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのかを理解し、自分の立場でどのような支援ができるかを考えることができるようになる。 1. 認知症がどのような疾患なのか説明できる。 2. 認知症をもつ人とその家族がどのような課題に直面しているのか述べることができる。 3. 認知症啓発のために自分に何ができるかを考え、述べることができる。
授業の展開計画	認知症とそのケアについての学習を中心にすすめ、それらの学習内容を踏まえた上で、後半では認知症啓発のため自分にできることを考えていく。 高齢者ケア施設における看護師としての実務経験による具体的な例をあげながら授業を展開する。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	認知症を引き起こす病気①　認知症とは
第3回	認知症を引き起こす病気②　認知症の原因になる代表的な病気
第4回	認知症をもつ人の困りごと①　認知症が生活に及ぼす影響
第5回	認知症をもつ人の困りごと②　必要な対応
第6回	認知症をもつ人と家族の気持ち①　事例紹介
第7回	認知症をもつ人と家族の気持ち②　事例からの考察
第8回	認知症をもつ人を支える社会システム
第9回	若年性認知症
第10回	認知症をもつ人の尊厳を支えるために
第11回	認知症ケアの歴史
第12回	認知症予防
第13回	認知症啓発のために私にできること①　個人ワーク
第14回	認知症啓発のために私にできること②　グループワーク
第15回	まとめ

履修上の注意事項	1. 課題等の提出期限は、厳守すること。 2. 疑問や意見等をリアクションペーパーに記載し、積極的に授業に参加すること。 3. 認知症に関するニュース等に関心をもって、学習内容と関連づけて考えるよう努力すること。
準備学習（予習・復習等）	配布した資料は、その日の復習に活用すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。

評価方法	講義内容への関心や疑問、理解度を見る授業毎のリアクションペーパー(30%)、授業のテーマに応じて出された課題(70%)の総合評価とする。
テキスト	配布資料あり。
参考文献	河野和彦(2016)『ぜんぶわかる認知症の事典』成美堂出版 日本認知症ケア学会(2016)『改定４版　認知症ケアの基礎』日本認知症ケア学会 日本認知症ケア学会(2016)『改定４版　認知症ケアの実際Ⅰ:総論』日本認知症ケア学会　他
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：グループワーク

ページの先頭へ　閉じる

シラバス参照

講義名	教職論
代表ナンバリングコード	13137SA02
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13137SA02

担当教員

氏名
◎ 島　立久

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解　〇汎用的技能
到達目標	現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等を身に付け、教育に関連する様々な課題や事例を通して、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し進路選択に資する教職の在り方を理解することがねらいである。 １　今日の学校教育や教職の社会的意義、さらには教育の動向を踏まえ、教員に求められる役割や資質能力を理解することができる。 ２　職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解することができる。 ３　学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携分担して対応する必要性について理解することができる。
授業の展開計画	「教育とは何か」という主題について、学生が理論と具体の相互往還を通して理解を深めることができるよう、学校現場での教員及び管理職経験、さらに教育行政経験による教育に関連する様々な事例を活用しながら展開する。受講者にとって身近な場所・職業である学校と教職についての理論的基盤や制度などを客観的に見ることで、その役割と意義を理解し、さらには、そこに潜む問題を正確に捉え、考察へとつなげていく。受講者の興味・関心に沿った内容や時事的なトピックを取り入れるなど、各受講者の学校に対する見解や学校教育体験を生かしながら、学校や教職に関する基礎的な理論・歴史・事象について考察する。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション・学校教育の今日的課題
第2回	教育の目的・本質
第3回	教育の意義・使命
第4回	教師としての研修
第5回	教師に求められる資質能力
第6回	学校教育の役割～小学校の目標・内容
第7回	教員の採用と任用
第8回	教員採用試験の実際
第9回	学校と教師の一日
第10回	職務内容と校務分掌
第11回	学級経営と授業
第12回	身分と服務
第13回	分限と懲戒
第14回	学校と地域との連携の意義や協働のあり方

第15回	学校教育の今日的課題への対応と危機管理

履修上の注意事項	常に教師としての意識で課題解決を図るように努めること。
準備学習（予習・復習等）	受講生自身の学校教育体験や教職への思いを書いてもらうことがあるため、教職へのイメージを膨らませておくとよい。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	期末試験（教育の動向、教職教養）70%、レポート（教育課題に対する考え、今後の課題）20%、授業への意欲・態度10%
テキスト	テキストは使用しないが、資料を配布する。授業で映像資料（スクールコンプライアンス等）を視聴することもある。
参考文献	授業中に随時紹介する。
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	授業では、アクティブラーニングとしてグループディスカッションを取り入れる。

ページの先頭へ 閉じる

シラバス参照

講義名	社会福祉概論
代表ナンバリングコード	00136SA20
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
看護栄養学部健康栄養学科	22149SA01
人間教育学部教育・心理学科	13136SA20

担当教員

氏名
◎ 久留須　直也

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解　〇汎用的技能　〇態度・志向性
到達目標	本講義は、社会福祉の基本的知識や対象者とのコミュニケーション技法の基礎を体系的に学び、それらの内容を踏まえ、保健・医療・福祉に関わる様々な職種との協働方法を理解することが目的である。 1）社会福祉が私達の身近な生活の中に深く関わり、生活を支えているものであるということを理解することができる。 2）社会福祉の基本的知識・理解を深めることができる。 3）社会福祉の法律や制度の仕組みについて理解することができる。 4）社会福祉における相談援助技法（ソーシャルワーク）について理解することができる。 5）社会福祉の近年の動向と課題について理解することができる。
授業の展開計画	本講義では、「社会福祉とは何か」という点を含め、現代社会における社会福祉の動向や理念をマクロ的視点から整理する。その後、医療保障・介護保障・所得保障・公的扶助・障害者福祉・児童家庭福祉などのミクロ的視点で社会福祉の法制度や課題についても整理していく。 また、社会福祉における専門職である「ソーシャルワーカー」が展開するソーシャルワークについても事例を通して理解を深め、実際にソーシャルワークの援助技法をロールプレイを通して体験する。 病院における医療ソーシャルワーカー（社会福祉士）としての実務経験から業務の実際を活かした授業内容になる。

授業計画表

回	内容
第1回	＜社会福祉の考え方＞ 社会福祉とは何か、社会福祉の構造、社会福祉における価値と倫理
第2回	＜社会福祉を取り巻く環境＞ 少子高齢社会の現状、現代家族の動向、現代の貧困問題
第3回	＜社会福祉の歴史＞ 戦前の社会福祉の歴史、戦後の社会福祉の歴史、社会福祉基礎構造改革、2000年以降の動向
第4回	＜社会福祉の仕組みと社会福祉サービスの利用の仕組み＞ 社会福祉の法律、社会福祉を支える行政の仕組み、社会福祉を支える国の財政、社会福祉の費用負担、社会福祉の事業の範囲
第5回	＜社会福祉の機関と施設＞ 社会福祉を支える機関、社会福祉を支える施設 ＜社会保障の分類＞
第6回	＜年金制度と医療保険の仕組み＞ 国民年金、厚生年金 被用者保険、患者負担、高額療養費
第7回	＜低所得者福祉（公的扶助）＞ 貧困と低所得の概念、生活保護の仕組み

第8回	＜児童家庭福祉＞ 児童の定義、児童福祉法、DV対策、児童虐待
第9回	＜高齢者福祉①＞ 介護保険制度創設の背景、介護保険のサービス利用プロセス
第10回	＜高齢者福祉②＞ 介護保険サービスの種類、地域包括支援センター
第11回	＜障害者福祉＞ 障害者の定義、障害者の理念、障害者総合支援法
第12回	＜地域福祉と利用者保護制度＞ 地域福祉とは、地域福祉を支える機関・団体、地域福祉活動の内容 利用者保護の背景、成年後見制度、日常生活自立支援事業
第13回	＜社会福祉援助技術①＞ 社会福祉援助の定義、社会福祉援助技術の体系
第14回	＜社会福祉援助技術②＞ ソーシャルワークの援助技法の理解（ロールプレイ含む）
第15回	＜社会福祉の担い手＞ 社会福祉に関する職場・職種、社会福祉分野の資格、多職種連携

履修上の注意事項	本講義は、基本的に土曜日に集中講義（各日、2～3コマ程度）として実施する。 原則、PowerPointを使用して講義を展開する。 講義終了前に「コメントシート」（レスポンスシート）を配布するので、講義終了までに講義の理解度、講義の要点・感想、質問等を記載すること。（質問については、次回の講義時に回答する。）
準備学習（予習・復習等）	予習として、授業の展開計画に該当する講義資料集及びテキストの箇所を読み、専門用語の意味や講義内容の概略を理解して、受講すること。1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	期末試験60%、コメントシートの提出20%、学習態度10%、授業への意欲10%の結果を含めて評価する。
テキスト	石田慎二・山縣文治 編著　(2017)　『新・プリマーズ／保育／福祉　社会福祉　(第5版)』　ミネルヴァ書房　(全員購入) 第1回目の講義時に講義資料集を配布するので、毎回持参すること。
参考文献	特になし
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：ロールプレイング

ページの先頭へ　閉じる

シラバス参照

講義名	体育科教育法
代表ナンバリングコード	13237SB23
講義開講時期	後期

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13237SB23

担当教員

氏名
◎ 神丸　一祐

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解　〇汎用的技能
到達目標	学習指導要領における体育科の目標及び内容、並びに全体構造を理解する。 体育科と背景となる体育学との関係を理解し、また各運動領域の特徴や指導する上での留意点を学び、教材研究に活用し実践することができる。 １．小学校における教科指導の理論と方法に関する基本的な知識を理解できるようになる。 ２．授業におけるスキル（教師行動）を理解し実践できる。 ３．児童・生徒の実態を踏まえた教材研究ができるようになる。
授業の展開計画	体育科教育の基本を学び、体育科の目標及び内容並びに全体構造を理解する。 教材研究に必要な知識を身に付け、各運動領域の特徴や指導上の留意点に配慮ができる能力を培う授業である。 学校現場での教員としての経験による事例を取り入れた内容を含む。

授業計画表

回	内容
第1回	小学校学習指導要領
第2回	新しい体育科教育
第3回	改訂の経緯
第4回	改訂の要点と体育科の目標
第5回	良い体育授業の条件
第6回	体育の教材・教具論
第7回	体育の学習指導論
第8回	単元計画(ユニットプラン)の作成①　単元計画とは
第9回	単元計画(ユニットプラン)の作成②　単元計画作成のポイント
第10回	授業計画(デイリープラン)の作成　模擬授業
第11回	体ほぐしの運動の教材づくり・授業づくり
第12回	器械運動の教材づくり・授業づくり
第13回	陸上運動(教材)の教材づくり・授業づくり
第14回	ゴール型ゲームの教材づくり・授業づくり
第15回	ネット型ゲームの教材づくり・授業づくり

履修上の注意事項	積極的に受講し、教師に求められる資質向上に期待する。 いつでも実技の見本ができるよう、常に体力の維持・増進を心掛けておく。

準備学習（予習・復習等）	シラバスを参照し、テキストや参考資料・配付資料等を熟読し、専門用語等を調べておくこと。 講義終了後は、配付資料をファイリングし、常に復習に努めること。 毎時間、授業の最初に小テストを実施するので、授業ごとに復習し、講義内容を定着させること。 1回の授業に対し4時間の時間外学習。
評価方法	期末試験、学習態度や課題・レポートで総合的に評価する。 期末試験(教科指導の理論と方法に関する基本的な知識や工夫等) 70% 課題・レポート(学習指導案・模擬授業) 等 20% 学習態度 10%
テキスト	文部科学省（2018）『小学校学習指導要領解説　体育編』東洋館出版社（全員購入）
参考文献	岩田靖　他編著（2018）『初等体育授業づくり入門』大修館書店 高橋健夫　他編著（2011）『新版 体育科教育学入門』大修館書店 杉山重利　他編著（2007）『最新　体育科教育法』大修館書店
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブラーニングの教授法：グループ・ワーク、模擬授業、プレゼンテーション

ページの先頭へ　閉じる

シラバス参照

講義名	小児保健概論
代表ナンバリングコード	13249SF23
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13249SF23

担当教員

氏名
◎ 福永　知久

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解　〇汎用的技能　〇態度・志向性
到達目標	子どもの心と身体の健康を保持・増進するための保健活動について基本的な視点を学ぶ。 1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を説明できる。 2.子どもの身体的な発育・発達と保健について説明できる。 3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明できる。 4.子どもの疾病とその予防法及び多職種間の連携・協働の下での適切な対応について説明できる。
授業の展開計画	子どもの健やかな成長発達と心身の健康を保持・増進するために、乳幼児の基本的な成長発達や健康障害を学習し、適切な保健活動や保育環境について考えていくことができるよう授業を展開する。 保育所・児童発達支援事業所における保育士・幼稚園教諭・看護師としての実務経験による具体的な事例をあげながら授業を展開する。

授業計画表

回	内容
第1回	ガイダンス、子どもの心身の健康と保健の意義、小児保健統計
第2回	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題 子どもの発育発達と保健(1)　多様化する生命の誕生と家族
第3回	子どもの発育発達と保健(2)　乳児期、SIDS
第4回	子どもの発育発達と保健(3)　幼児期、発育発達の評価
第5回	子どもの発育発達と保健(4)　子どもの生理機能の発達と保健、虐待防止
第6回	子どもの健康状態の把握と体調不良時の対応
第7回	子どものかかりやすい疾病概論、健康診断、保護者との情報共有
第8回	慢性疾患や特別な配慮を要する子どもたちへの支援(1)　子どもたちの背景と問題
第9回	慢性疾患や特別な配慮を要する子どもたちへの支援(2)　保育所や学校で必要となる計画
第10回	慢性疾患や特別な配慮を要する子どもたちへの支援(3)　保育所や学校で発症する症状への対応
第11回	慢性疾患や特別な配慮を要する子どもたちへの支援(4)　特定の健康課題と適切な対応
第12回	子どもの心身の健康状態の把握と発育発達の支援(1)　ガイダンス、情報収集
第13回	子どもの心身の健康状態の把握と発育発達の支援(2)　内容検討、制作
第14回	子どもの心身の健康状態の把握と発育発達の支援(3)　制作、発表準備
第15回	子どもの心身の健康状態の把握と発育発達の支援(4)　発表会、フィードバック

履修上の注意事項	授業内では、保育者としての丁寧な言葉遣いで話すことができるように心がける。 遅刻や私語などにより授業を妨害する場合は、退室を命じることがある。

準備学習（予習・復習等）	配布資料、参考文献、ノートなどを日頃から見直し、内容を確認・整理しておくこと。 授業で出された課題については自宅学習などを通して積極的に取り組むこと。 1回の授業に対し4時間程度の時間外学習。
評価方法	単位認定試験（レポート等）70%、課題および授業態度30%で総合評価する。
テキスト	特に指定しない。参考資料はその都度配布する。
参考文献	鈴木美枝子（2019）『これだけはおさえたい！ 保育者のための「子どもの保健」』創成社 厚生労働省（2019）『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』 厚生労働省（2022）『保育所における感染症対策ガイドライン』 内閣府・文部科学省・厚生労働省等（2016）『教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン』
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。
備考	アクティブ･ラーニングの教授法：問題解決学習、実践演習、グループワーク、ロールプレイング

ページの先頭へ 閉じる

シラバス参照

講義名	日本語教育入門
代表ナンバリングコード	13181SA30
講義開講時期	前期

所属名称	ナンバリングコード
人間教育学部教育・心理学科	13181SA30

担当教員

氏名
◎ 加藤　理恵

ディプロマ・ポリシーとの関連	◎知識・理解 〇汎用的技能
到達目標	１　日本国内および世界各地での多様な日本語教育の現状について説明できるようになる。 ２　社会の動きに伴って日本語教育のあり方も変化することを説明できるようになる。 ３　日本語の音声・音韻の基礎的な知識が説明できるようになる。
授業の展開計画	これから日本語教育を学ぶにあたって日本語教育の目的、現状、社会との関わりに関する基礎的な知識を学ぶ。言語については、後期に開講される「日本語学概論」と合わせて学ぶ。日本語教育現場での日本語教員としての実務経験による事例を取り入れた内容を含む。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション　日本語教育とは
第2回	日本語の位置１：日本語と外国語
第3回	日本語の位置２：絶滅危惧言語
第4回	日本語の位置３：日本語の類型
第5回	社会・文化・地域１：日本で学び、働き、生活する人たち
第6回	社会・文化・地域２：国語教育と日本語教育
第7回	社会・文化・地域３：諸外国の日本語教育事情
第8回	言語と教育１：地域の日本語教育
第9回	言語と教育２：学習支援・促進者（ファシリテーター）
第10回	言語と教育３：やさしい日本語
第11回	言語と教育４：異文化間教育　日本語教員の資質・能力
第12回	日本語の音声・音韻１：音声と音韻
第13回	日本語の音声・音韻２：日本語の母音と子音
第14回	日本語の音声・音韻３：日本語の拍
第15回	日本語の音声・音韻４：日本語のアクセント・イントネーション

履修上の注意事項	講義を中心に進めるが、課題解決活動や発表を行うことがある。学生の積極的・主体的参加を期待する。日本語教育の実際を知るために、薩摩川内市国際交流センター等で行われる日本語学習支援を可能な範囲で行う。日本語学習支援に参加した場合は報告書を提出する。
準備学習（予習・復習等）	予習：課題資料講読 復習：小テスト或いは課題（授業時に提示）

	１回の授業に対し４時間程度の時間外学習。
評価方法	中間課題（含ブックレポート）：60% 期末課題：30% 授業参加：10%
テキスト	伊坂淳一(2016)『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房（全員購入） 授業時に提示する。
参考文献	荒川洋平(2016)『日本語教育のスタートライン』スリーエーネットワーク 岡田英夫(2008)『日本語教育能力検定試験に合格するための世界と日本16』アルク
学修のフィードバック方法	課題（試験やレポート等）については、フィードバックを行う。 ただし、単位認定試験（レポート等）については、予め科目担当者が指定した期限内に申し出のあった学生のみ対応する。

ページの先頭へ 閉じる